

## ◎ 2016年度若手医師奨励賞受賞



医療法人社団 昂会 日野記念病院 外科

児玉 泰一 (平成 20 年卒)

この度は若手医師奨励賞を賜り、誠に感謝しております。

今回表彰していただきました日本臨床外科学会雑誌に掲載された「小腸癌を契機として診断された Lynch 症候群の 2 例」の論文は、比較的珍しい Lynch 症候群関連の原発性小腸癌の症例を滋賀医科大学病院で短期間に 2 例経験しましたので論文報告したものです。他の先生方の受賞論文とは異なり、日本語の学会雑誌の症例報告ではありますが、今年度より新設された若手医師奨励賞という大変名誉な賞をいただき、大変うれしく思います。

当時私は大学院生として研究をしておりましたが、Lynch 症候群関連小腸癌の症例を発表してみないかとの打診があり学会で発表させていただきました。以前に先輩から「学会で 100 回発表するより、1 本の論文を書くほうが大事だ」と教わってきておりましたし、当時は当直のバイト先で書く時間もありましたので、発表後はすぐに論文を書いて上司の先生の指導をいただき投稿しました。学会発表の準備の段階から同時に論文を書き始めることは簡単なようではなかなか難しいことですが、それをしないとすぐに時間が経過してしまい、論文を書くのがしんどくなってお蔵入りしてしまうことは僕自身何度か経験があります。今回の賞をいただき、学会発表してすぐに論文投稿すれば良いことあるよと改めて教えていただいたと思っております。

私は現在、大学院を修了し日野記念病院で勤務しておりますが、日々の診療をしておりますと時間が経つのがとても早く感じます。それは恐らく外来、病棟業務、手術などをして、仕事をした満足感に満たされているからだと自覚していますが、論文を書くという仕事を忘れてしまいがちなことも自覚しています。若手医師奨励賞をいただいたからには、実臨床において希少性のある症例の報告や医学的意義のある報告を多く発表し、それを論文にするという姿勢を今後も続けていきたいと考えております。

最後になりましたが、論文の作成にあたりご指導いただきました先生方にお礼を申し上げます。これからも精進して頑張りますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。